

## 南陽っ子だより ③

今回から数回に分けて、私たちが気付かづに行っている差別の現状について考えていきたいと思います。少し難しい話にもなるかと思いますが、一緒に考えていただければと思います。

「SDGs」最近よく聞く言葉です。企業によっては、バッジを身に付けているところもあるようです。そのSDGsでは、目標10に「人や国の不平等をなくそう」を掲げています。

### 「マイクロアグレッション」って ご存じですか？

突然ですが、「マイクロアグレッション」という言葉を聞かれたことがありますか？「アンコンシャスバイアス」はいかがでしょう。

育った環境や日々接する情報から形成される、「アンコンシャス・バイアス（無自覚の偏見や固定概念）」。近年、このアンコンシャス・バイアスが行動となって表れ、結果的に他者を傷つけてしまう「マイクロアグレッション（無意識の差別的な言動）」が問題視されています。

「女性なのに出世してすごい!」「新入社員にしてはいいこと言うね!」といった言葉。

一見なんてことのない、またはある意味褒め言葉のように聞こえますが、その発言の裏には「女性は出世できない」「新入社員は仕事ができない」といったような無意識の思い込み（アンコンシャスバイアス）が潜んでいます。

このような言動を「マイクロアグレッション（小さな攻撃性）」と呼び、それにより疲弊している当事者も多いという現状があります。

この無意識の行為こそが差別の根本に潜んでいるものだという事です。

しかし、マイクロアグレッションは、差別の一種であるにも関わらず。他の差別と異なっているのは、「差別している側にその意識がない」ケースが多く含まれているということです。

差別する側に「差別している」という自覚がない以上、差別的な言動の改善は見込めません。またマイクロアグレッションを向けられた側にとっても、「日常会話のひとつ」として、見逃してしまうケースも多いのが現状です。

しかし、その言動が引き金となって精神的に苦しむ人も数多くいるのだそうです。

### 身近で起きたマイクロアグレッションを紹介します。

私が以前勤務していた学校で実際にあったことです。ある日、「学校だより」に作品展入賞者の紹介が掲載されました。支援学級の子供が入賞し、当然その子の名前も掲載されました。その子のご両親も関係する職員も大変喜びました。

ところが、「学校だより」を配布した日の放課後一本の電話が職員室にかかってきました。電話の主は、長年小学校に勤務した後、退職した者だと告げた女性からでした。「学校新聞に支援学級の子供の名前が掲載されているが大丈夫なのか?」というものでした。

その話を聞いた職員のほとんどが、元教員の女性とその様な電話を掛けてこられるような、社会通念がいまだに根強く残っている現状に、強く落胆しました。

(次回に続く)

文責:田崎勇